

2007年8月31日
東京大学農学生命科学研究科 西廣淳

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区「自然再生事業実施計画書 B区間（原案）」へのコメント

霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会の皆様

協議会に出席しなくてはと思いつつも、公私ともに多忙で、気がつけば今年度は一度も出席できておりませんでした。皆様にはご迷惑をおかけし、大変申し訳なく思っております。霞ヶ浦の自然再生事業への、保全生態学・植物生態学の研究者の立場からの参加・協力は今後も継続したいと希望しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回も日本植物学会での講演当日と重なってしまったため、欠席させていただきます。事前に河川事務所から原案を見せていただく機会を得ました。いくつかのコメントをさせていただきましたが、私の意見としてご提案した方がよい点がありますので、書面にてご説明いたします。

○ご提案

1. 「B区間における事業の目的」に、以下の項目を追加することを提案いたします。

追加項目

○霞ヶ浦において衰退が著しく保全上重要な植物を維持できる場を再生する。

説明

事業地では沈水植物など、霞ヶ浦では近年衰退・消失してしまった植物も確認される可能性があります。これらの植物が、事業地内の限られた範囲であっても、成長・開花し、新たな種子を生産することは、霞ヶ浦の植物の系統を維持し、より大規模・本質的な再生を行うための材料を保全する上で価値があることです。そのためには、沈水植物などが出現しやすい条件を設計することや、出現した場所での植生管理などの維持を計画することが必要だと思います。目的に上記の項目を追加し、今後これらの手法を検討することをご提案いたします。

原案を拝見して気づいたその他の点については、河川事務所の方にお伝えしました。

以上